

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。〔13番 伊藤文博君登壇〕

○ 13番(伊藤文博君)

新政会、伊藤文博です。

本日は、新幹線開通に向けた糸魚川市の準備状況、態勢について伺います。

新幹線開業が2年後に迫りました。世界ジオパーク認定と合わせて地域活性化の100年、200年に一度のチャンスであります。これまでも何度も言っていますが、この機会を活かすことができなければ転落の一途をたどるということにもなりかねません。糸魚川市の準備状況、態勢の全般について伺います。

(1)市職員が全員揃って同じ意識を持って取り組んでいかなければならない問題であります。2、3年で部署を異動する職員は、糸魚川市が抱える問題に対して共通の問題意識を持っていなければなりません。担当部署だけの問題ではないし、縦割り行政の弊害を排除して縦横の連携を高めて取り組む必要があります。

部課長会議では、部署を超えた議論がなされなければなりませんし、若手同士が糸魚川市の将来を考えて日角泡を飛ばす議論の場が必要であります。どのように考え、どこまで取り組んでいるのでしょうか。

(2)ハード、ソフト両面の取り組みが求められています。ソフト面では青年会議所を中心とした取り組みが非常に活発であり、我々も夢を感じることが出来ます。しかし、市民全体への広がりがあるかどうかという、歯がゆい思いをしている方が多いと思います。

糸魚川市民がその魅力をよく理解して、「もてなし」や「情報発信」に力を発揮していけるようにするために、どのような取り組みをしていますか。

(3)ハード面でいうと、新幹線駅周辺整備、新幹線駅1階部分の活用、ジオパーク関連施設など、多くのポイントがあります。

フォッサマグナパークの整備も大きな課題です。泉田知事が言っていたように、断層に自分が立つ感覚は他では味わえないものだと思いますが、フォッサマグナパークの現状では味わうことができません。人を呼べる施設としてどのように考えていますか。

(4)新幹線駅舎1階部分の活用については、ハード、ソフト両面の問題です。ヒスイ王国館との連携を図った上で、利用者の目線での計画・運用が必要です。特別委員会でも審査されているところですが、今一つイメージがはっきりしないところがあります。今の段階では平面図とパース図が示されていますが、実際の運用面に不安を感じます。

① 観光協会との連携について、もうかなり具体的にないといけないと思いますが、どのようになっていますか。

② 利用者からいうと、鉄道ジオラマは一部のマニアには大変好評となるでしょう。一般の方々にも楽しんでもらえる施設にする工夫は不可欠ですが、どのように考えていますか。

(5)「ジオパークを心配する声が多いよ」糸魚川ジオパーク大使を務められる方の言葉です。「人を呼ばなくては何のためのジオパークか」ということになるのですが、日常的な観光客を増やすことが課題となりますが、イベントなどの企画だけではなく、土台となるべき観光地としての基礎力を養う必要があります。どのように考えますか。

1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、各課固有の事務のほか、議員ご指摘のような全庁にまたがる大きな課題もあることから、職員全員が共通認識を持った上で取り組みを進めていくことは重要であると捉えております。

庁内連携については、市政運営会議や定例部課長会議のほか、必要に応じて調整会議や委員会を設置し、取り組んでおります。

2点目につきましては、おもてなし講座やジオパークマスター講座などにより、おもてなしの心の醸成や情報の伝え方について、出前講座などで啓発を行っております。

3点目につきましては、23年度に断層面を従来の2倍の長さとし、観察しやすいように改修しましたが、崩れやすい地質であるため、今後も観察しやすい環境づくりを工夫してまいりたいと考えております。

4点目の1つ目につきましては、観光情報の発信スペースを計画しており、現在の観光案内所との調整を図っているところであります。

2つ目につきましては、マニアの方だけでなく、子どもに規されるプラレールを設置し、親子が一緒になって遊べるよう整備をしております。

5点目につきましては、市民一人一人がジオパークの担い手であり、来訪者から満足していただける受け入れ体制の整備を観光関係者と連携をしながら、さらに進めていく必要があると考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

## ○13番(伊藤文博君)

多分、考え方は共通してるんだと思うんですね。具体的にどうかというところと、それから物事の捉え方のところで、やはりちょっと違う感覚があるのかなと思いますので、前向きに質問していきますので、よろしくお願いします。

1点目ですが、総文の行革でも話が出たところでありますけど、限られた時間内で十分に議論できなかったこともあり、ここでまた質問させていただきます。

糸魚川市が持つ重要課題に関して職員、特に幹部職員が問題意識を共有して物事に当たっていく姿勢、意識ですね、これは全ての職員共通のものとしなければなりません。これを浸透させるには、なかなか面倒だと思います。「言うは易し行うは難し」と言いますが、そのとおりでありまして、浸透させていく、どのように考えていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

## ○議長(古畑浩一君)

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

## ○総務部長(金子裕彦君)

お答えいたします。

議員おっしゃるように、市職員全員一丸となって取り組むという姿勢が理想でございますけれども、なかなか難しいのも現実でございます。具体的な取り組みといたしましては、先ほど市長が申し上げましたように市政運営会議、あるいは部課長会議、調整会議、また日々の業務の中におきます「ほうれんそう」といわれる報告・連絡、相談、そのような取り組みの中で、市の施策の方向を一致させるべく、それぞれ役割を分担して業務を行うということに努めておるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

## ○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

## ○13番(伊藤文博君)

この手の質問は、質問すると考え方が返ってくると。考え方が返ってきますけど、じやあ実際に、それが実践されているかどうかというところが大きなポイントであって、こういうふうを考えて取り組んでいますという答えだけで、やはり物事は解決していかないんですね。

そういう観点で質問していきますので、庁内の人事異動は二、三年で部署が変わる。若手のうち、これ仕方ありませんが、課長ともなれば、どの部署に行っても即戦力とならなければならないし、また、そうならない人は課長職にはなれないんだらうと思います。そのクラスが集まる会議で、ほかの部署のことには関心を示さないというようなことがあれば、これは大きな問題であります。

1つには、自分が次には配置されるかもしれない部署の問題ということを含めて、他部署の問題に無関心であることの無責任さですね。それからもう1点は、問題の共有意識が不足しているために、また部課長会議をなぜやっているかということをも根本的に理解できていない、報告会ではない。

部課長が枠を超えて議論して、庁内の知恵を結集するというべき会議であるというふうに考えますが、この辺の考え方というのは、しっかりと共有されていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

お答えいたします。

確かに今、議員ご指摘のように、日角泡を飛ばしてというところまでは私は感じていない、そういう状況にはなっておりませんが、かなりやはり問題のあるものについては経験があったり、また、知識のある課長のほうからは、意見をいただいております。その目的は今言ったように問題意識の共有、また、要するに一丸となって取り組むことの必要性があることから、取り組まさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

ちょっと答えとしては不十分だと思います。

今の会議が、そこまで意識が高いもので開催されているかどうか。要するに部課長が、私が先ほど求めたような姿勢で、会議をしていることができていないのではないか。考え方は、市長が言われるとおりですよ。さあ、実際はどうかということで、そこを見直して、再度また意識を変えて取り組んでいく必要があるんじゃないかということを私は言ってるわけですし、総文の行革の話の中でも、確かに発言には個人差があるというような答弁も受けております。その辺の考え方をしっかりしないと、やっているんですよということだけで、何も改善していかないというふうに思うんですよ。よりよくするために、どうでしょうかということです。お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

## ○市長(米田 徹君)

お答えいたします。

常に前向きな方向性は私は感じております。ただ、今言うように、もっとそれがぐいぐい引っ張っていくといふところまで、議員ご指摘だろうと思っております。そのようにもっていくような方向で、これから進めていかななくてはならないと私も思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

## ○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

## ○13番(伊藤文博君)

マンネリ化というのが、1つのポイントだと思うんですよ。やっぱりどこかでそれに気がついて、打破していかなければいけない。これは市役所だけの問題じゃなくて、あらゆるところでそうだと思いますが、若手のうちは情熱があっても、次第に抵抗勢力という言い方がいいかどうか分かりませんが、それに押されてなじんでしまう。公務員の慣例に従って、自分のその部署の数年間を前任者と同様に問題なく務めることが、特に変革を求めないということになりがちであろう。情熱のある若手が集まって、先ほどから委員会をつくったり、庁内会議でという話がありますが、そういうかた苦しい空気ではなくて、自由に議論を交わして、糸魚川市の問題に突破口を切り開いていくというような集団といいますか、それに期待をしたいなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

## ○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

## ○市長(米田 徹君)

お答えいたします。

やはりマンネリにならないようにするのが我々の努めだろうと、理事者の努めだろうと思っております。そういう中で我々といたしましても、常日ごろからやはり会議のあるたびに、そういった投げかけもしますし、またt時には違った観点からの意見も言わせていただいております。特に定例という形になってくると、マンネリに陥りやすい部分があるかと思うわけでございますので、そういったところは、やはりしっかりと見詰めていかなくちゃいけないんだろうと思っております。

また、各種会議や、そういった委員会につきましては、非常に若い職員につきましては、かなり多くの意見が飛び交っております。私も時々ですが参加しますと、非常に熱心にあってもらっております。そういったことを考えますと、本当に職員もようやく若い人、要するに情熱を持って市

の職員に入ってくる若い人ほど、やはりそういった情熱をそういったところでは、生かし始めてきてくれているのかなというのを感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

経験は重要ですよ。我々議会のことを考えても、若いだけではなかなか務まらない面もあります。ある程度の年齢で、情熱もあって分別もあり、そして世の中のことをわかっている。そして力が発揮できるというところがありますが、議会の場合は、議員個人個人の主義主張で成り立ち、主義主張が共有できるものが会派を結成している。

ところが市の職員は組織で動いていますから、組織のマンネリ化を打破する情熱が必要である。組織のマンネリ化ですね、これを打破していく情熱が必要である。若いうちから情熱を枯らさないように、組織の中で生かしていく雰囲気というのを養っていくことが大変重要だというふうに思います。考え方だけではなくて、先輩、上司が、やはり若い人たちの情熱を押さえ込まないで、それをもっと活発化させていく努力というのが必要である。それを意識として、しっかり持っていなきゃだめということになるんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

お答えいたします。

昨日、シーサイドバレースキー場で全国JRのスキー大会の開会式が行われました。270名ほど参加をされて、私もそれに出席をさせていただいて、その流れを見させていただいて、それはJR全員ではないわけですが、選ばれた人間で来たわけですが、非常に活発な流れを見させていただきまして、何か私も職員にないものを感じさせていただきました。

そういったことが、今、議員がご指摘するようなところを感じられるんだろうと思うわけですが、極力、我々はそういう活発な動きをするような職員を、つくっていかなくちゃいけないんだろうというのを感じておる次第であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

そこで若手の行政政策研究会みたいな、そういう任意の集まりに対して援助していくような仕組みをつくったらどうでしょうかね。大した援助じゃなくてもいいと思うんです。やっぱり奨励しながら、わずかであっても必要な備品程度のものになるんでしょうか、わかりませんが、そういう仕組みをつくって行って活発、活性化していく。ただ言うだけでは、やっぱりだめだと思うんですよね。何か突破口となる取り組みが必要だと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

お答えいたします。

確かに今、我々がお答えした中においては、限られた会議とか委員会形式のものを今お答えさせていただきましたが、以前、私が要望するときに内閣府に行ったときに、結構若い役人といいたいでしょうか、担当官がいて、ぜひ糸魚川で若い人たちと交流してくれないかと言って集まってもらって、任意の職員とずっと長きにわたって連携といいたいでしょうか、会議なり、また、交流をしてもらっております。そのように我々といたしましては、いろんな機会を捉えて、やはり刺激というものも必要だろうと。職員だけではなくて、そういった同じ目的で、要するに市民の幸せのためにやることであればということの中で、機会をつくっていかなくてはいけないと思っております。正式、または非公式であっても、そういった機会を多くつくるのが大事だろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩下君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

職員提案は今も行っていますよね。今話したようなグループの中から政策提言が出てくる。また、市長を巻き込んだ議論に発展していくというような熱意の渦ができれば、素晴らしいと思います。

やっぱりこれは初めに完全な仕組みをつくるというよりも、やりながら組み上げられていくというようなことが、大事なのではないかなというふうに思うんですよ。まず、何らかの形で取り組んでいただきたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長(金子裕彦君)

お答えいたします。

現在でも自学支援の助成制度というようなものがあります。これは一人ずつというような形のを捉えておりますけれども、これを複数でやるというような形で、伊藤議員がおっしゃられるようなグループでお互いの知恵、意見を出し合いながら、1つの政策に向かって意見交換をして何か作り出していくと。こういう取り組みも大事だと思っておりますので、その辺、今申し上げました自学支援の延長線上に、議員がおっしゃられるようなものも検討してまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

2番目へ移ります。今の点、よろしくお願いします。

おもてなし、情報発信の件ですが、2月26日に国土交通省北陸信越運輸局主催の観光人材育成セミナーが上越市を会場に開催され、地元の会社がコーディネートと運営を担当していました。観光庁の事業で、北陸信越地区として、新潟、富山、石川、長野の自治体や観光関連のところに案内をしたようですが、糸魚川市の出席がなく、残念だったと運営会社の経営者がおっしゃっておりました。国の観光部署と直接のコネクションが図れる絶好の機会だったのでということでありましたが、なぜ参加されなかったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長(滝川一夫君)

いろいろな行事が重なりまして、職員をちょっと派遣できないような状況だったというふうに把握しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)



伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

そのような理由で出席できないで済むような会議だったんでしょかね、セミナーだったんでしょかね。やはり相当重要な会議だったというふうに、私はその運営会社のほうから聞いております。いい機会だったと。物事の捉え方、優先順位の感じ方ですね、やはり何としても行っていただきたいかったなというふうに思うんですが、どうでしょかね。市長、どう思われますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

お答えいたします。

いろんな催し物、そしてまたいろんな我々の部署において役に立つ立たんというのは、行ってみなきゃわからんものであるわけですが、基本的には、私はやはり出席していくべきと思うわけですが、今ほど課長がお答えしたように、少ない人数でやっとするわけですが、日程的に折り合わないときもあるのかもしれませんが、基本的には、なるべく多く出席するようにしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ボものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

出席しなかったものを、ここで根掘り葉掘り言ってもしょうがないんですけど、その姿勢というのが、やはりちょっと残念だなというふうに思います。物理的に、しょうがなかったんかもしれませんが、でも、これも担当課だけの問題じゃないんじゃないでしょうかね。横の連携がしっかりしてれば、ほかの課の職員に行ってもらうことだってできたと思いますよ。それが横の連携です、その観点が欠けている。

だから観光庁の事業ですよ、ジオパークに関して、どこの役所が担当するんですかっていうようなことまで質問を受けながら、いろいろ話している中で、直接メインの担当になるであろう観光庁の事業で、また、この地域担当で、国の観光部署と直接コネクションができる機会、横の連携は必要でしょう。総務部長、どう思いますか。

〔「議長」と呼ボものあり〕

○議長(古畑浩一君) ’

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長(金子裕彦君)

お答えいたします。

今ほどご質問のあった事例については、私もちょっとその研修は承知しておりませんでした。そういう面で横の連携、先ほど交流観光課長が申しあげましたように、交流観光課の中では、いろいろな日程の都合で行けなかったけれども、じゃあほかの職員で聞きに行けたんではないかという部分については、そのような対応ができたというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

産業部長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

酒井産業部長。〔産業部長 酒井良尚君登壇〕

○産業部長(酒井良尚君)

私もその人材セミナーですね、国のほうでそういう方も来られて実施するという話は前にちょっと、詳しくは知らなかったんですけども、そういう機会があるということは承知しておりましたが、できれば私自身が出席したいという気持ちもあったんですけども、議会の準備等の日程もございまして、そのときは出席はなりませんでした。

そういった意味では、担当課がきちんと出席をするという形をとっていければ、一番よかったかなというふうに思っておりますが、議員ご指摘のような視点で、例えばジオパークに関連するほかの、例えば産業部以外のところからも関係を募っていくというふうに思いを至らせれば、そういうこともできたかなと、今となっては少し残念だったなというふうに思っております。

そういった意味から、ご指摘のような連携の重要さというのを、改めて心にとめていかなきゃいけないなというように思つた次第であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

結果論でね、これ以上掘り下げてもしょうがないので、今後またしっかりと横の連携をとりながら、重要なことについては、取り組んでいてもらいたいと思います。

おもてなしということですが、ヒスイ王国館、観光協会の事務所があって、サテライトオフィスとしての機能を果たしていると思いますが、おもてなしという感覚で見ると、いろいろ課題があると思いますが、どのように捉えておられるでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長(滝川一夫君)

お答えします。

まず、お客様に対しては一番玄関口で対応する、例えば今ご案内のあった観光案内所、それからサテライトオフィスと、皆さん非常に頑張っていただいております。

そういう意味では糸魚川の紹介を含めて、専門的に取り扱っている人はわかりますけども、ある意味、市民広く展開した場合に、それぞれの来訪者に対して対応できてるかという部分は、少し不安な部分もあります。そういう市民域への啓発なり、非常に事業の展開が1つの課題かなというふうに思っております。多くはジオパークマスターとか、おもてなし講座とか、それから出前講座とかという形で、広範に事業実施させていただいておりますけども、全てが最終的にうまく機能してるかと言われれば、まだまだ事業の途中かなというふうな気がしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

サテライトオフィスを駅前商店街から王国館に移すときに、いろいろ提言しましたね。1階に移ったときは、かなりオープンスペースに近いイメージでした。それが2階に移ったときに、完全に事務所の受付カウンター形式になっている。今行ってみますと、カウンターが高いですよ。それで受付にいる人がちょっと下向いて仕事をしていると、顔がもう見えません。だから人が通っても挨拶をしない。東京糸魚川会との懇談会の際に指摘されました、それは。私もあそこを通ると思

います。いる人を批難するんじゃないんですよ、構造的な問題であろうと。

ソフト面のこともあるかもしれませんが、そのことについて、あそこを見て問題意識を持って、すぐ直さなきゃいかんでしょ。誰かに言われるんでなくて、要するに糸魚川市の職員が見て、そこに問題があるということを感じなきゃならんと思いますけど、問題意識を持ってなかったでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長(滝川一夫君)

特にサテライトオフィスと、今、併合しております。新たな少し経費をかけまして、上のほうに設置をし直しました。別々な活動よりも統合されて、なお情報発信力を強くしようということで、今、観光案内所と、それからジオのサテライトオフィスというふうな一体性を持たせております。

最初は、確かに言われてみればカウンターは少し高いかもしれません。ただ、立地的に、どうしても階段を上がって、今活用するような方向になっておりますので、なおそのような意識があるのかなというふうに思います。

少し投資した直前だったということと、もう1つは誘導の仕方を、少し話が細かくなれば、向かって左側のほうに椅子等を配置して、少し懇談を深められるような対応の仕方に変えてあります。それがうまく機能しないのも事実かもしれません。今後ちょっと現場のほうと検討しながら、観光協会とも調整を図りたいというふうに考えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

やっぱり問題点、もうストレートに今お客さんを受け最前線だと、一番玄関日のところにある問題点をチェックできていない、そして改善もできていないということが、いくらおもてなし、おもてなしと言ったつて、お客さんの目線で物事を見る癖がついてない、これは到底無理なことですよ、ここに根本的な問題を感じる。そこがだめじゃなくて、やっぱりそうなんですよ、糸魚川市というのは、そうであるということを認識するということから始まらないと、改善できないというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長(滝川一夫君)

お答えします。

おっしゃるとおり関係団体の関係者、並びに内輪の中にと、なかなかそういう視点というのは見抜けない部分だと思います。今後は広くお客様の意見を聞きながら、なおかつ皆さんにご指導をいただきながら、現場のほうを、できるだけおもてなしに遭遇するような形で、調整を図りたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

そのフロントカウンターにおられるガイドさんたちの意見もよく聞いて、どういうふうにしたら自分たちがやりやすいかということを考えてもらいたいと思います。

イベントなどのときではなくて、日常生活の中で観光客を見て、「あっ、お客さんだ」と思う人が、どのくらいの割合で市民の中にいるのでしょうか。正直、私も意識してないと無理ですね、そういう癖がついてない、だから意識して努力するしかないんです。それでいいですよ、最初は、意識して努力をする、癖がついてないんですから、そして自然にそう思えるところにもっていくと。

意識しなければいけないということに気づいてもらう。ジオパークが糸魚川市にとって、地域振興にとって大変重要かつ有効なツールであって、糸魚川市全体でお客さんをお迎えしようとする意思を多くの人に持ってもらうところがスタートラインである。そこを意識してもらう、意識がないから意識してもらう、この視点はやっぱり大事だと思いますが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長(滝川一夫君)

お話のとおりだと思います。例えば、ごみ1つ落ちていれば、ごみを拾う習慣になる。あるいは困っているお客様を見れば、ちゃんと応えてあげる、それはやっぱり接遇の1つだと思いますので、慎重に対応してまいりたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

さっきの1回目の質問ともリンクするんですけど、やっぱり熱意ですよ。熱意を持って仲間と口角泡を飛ばして議論する、そこから何か生まれてくる。苦しい状況のときこそ、真っ正面からその課題、問題に向き合つて、苦しいけど、あえて真正面から向き合つて考え抜いてこそ、そこを乗り越えていくことができるであろうと思います。難しい問題ほど、案外答えが簡単に出ないから、諦めてしっかりと考えていないものじゃないかなと思います。

現状を打開するためにも、お決まりの枠組みでないところでの取り組み、熱意ある議論が求められています。これは先ほどの1つ目のところに戻りますが、交流観光課長は担当部署として、やはりそこを何とかしたいという熱意で一生懸命取り組んでこられたと思いますね。では庁内全体でこのことに対して、また、観光協会を巻き込んで、一般市民を巻き込んでというような取り組みというのは、どう考えますか。企画のほうで答えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長(金子裕彦君)

お答えいたします。

職員のレベルでも当然もてなしの気持ちを持って、身近なところでは来庁される皆さんに、そういう気持ちを持って接する。戸惑っている人があれば、率先して声をかけるというような取り組みが必要だと思っております。そういうことに心がけております。

そういう取り組みを含めながら市民全員が、伊藤議員がおっしゃられるように外から来られた方に声をかけたり、あるいは気持ちよく糸魚川においでいただくというような気持ちを持ちながらやるのが、非常に大事だと思っております。そういう取り組みを身近なところから、先ほど交流観光課長が、ごみが散らかっていれば拾うという簡単なところから一つずつ取り組むことが、結果的には早道になるのではないかと。そういう取り組みを積み重ねていくことが、大事だというふうに思っておりますので、職員も含めて、そのような取り組みを今後とも進めていくことが大事だと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

私が言ったのは、結局、熱意を持った人間が集まって議論していく。それから実際の行動に移っていくという形をとってほしいということですね。それを違う形で答えられたということだと思っておりますけど、やはり一定の枠組みの人間だけではなくで、考える人間が多ければ多いほど、議論に参加する人が多ければ多いほど、大きなエネルギー、熱意となり、思わぬ発想や行動力が生まれてくるんであろうというふうに思います。

最初に言ったセミナーなどの機会を逃さずに、ヒントを追い求める、これも熱意ですよ。どこかで何かヒントあるんじゃないかということ、その機会を逃したくないという思い、これがやはり人を動かして、わざわざそこに足を運ぶことになる。どうせ行ったっていつものとおりだろう、行っても行かんでも同じだわなんて思っていたら、もうこれは当然行きませんわね、無理をしては行かない。そこのところの何ていうか、姿勢というのを、やっぱり変えていかないとだめだと。そこから今度は、おもてなしの心にもつながっていく。おもてなしの対応を、最初から求めたって難しいと思いますよ。どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

お答えいたします。

どうしても我々のところは有名な観光地でなかったから、やはり人と接する機会というのは少ないわけでありまして、どうしても市民同士の同じような感覚で接してしまうところが、結構多いわけでございまして、今ほど言うように、我々はもてなすというのを最大限、基本に持ちながら接し、そして、それが自然に身についていくことが、今、議員ご指摘のようになっていくんだらうと思うわけでございしますが、スタートのときは、やはり少し根を詰めて、そういったところをやらなくちゃいけないんだらうということ、今やっておりますが、当初からのやつは1つの一定のところにまで行って、少し足踏み状態だらう。これからもう1つ越していかなくちゃいけない、それを何度もやらなくちゃいけないんだらうと思うわけでございしますが、今、俗に言う二の矢というのが、まだ出てないのが、今1本が出て、ようやくそれが1つ通り過ぎていったかな。二の矢をどうやっていくのかというところで、今進めていかなくちゃいけないんだらうという考え方でおります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

ぜひ、いろんなところにある熱を生かした取り組みをしていただきたいと思います。

フォッサマグナパークですが、私は土木技術者でもあります、初めて見たときに、ああ、土木屋の発想だと思いました、整備状況がですね。その後、改善されましたが、泉田知事の言う断層に立つという感覚には、まだちょっと遠いであろうと。断層が見られるということは、すごいことですが、はっきり見える、そして感じられるということが重要である。今のフォッサマグナパークに欠けているのは、客観的に見て何でしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

佐々木文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 佐々木繁雄君登壇〕

○教育委員会文化振興課長(佐々木繁雄君)

お答えいたします。

一体何が欠けているかというところは、今見る場所が非常に狭いということと体験、身をもって臨場感あふれるような、パノラマのような状況にはなっていないということであります。そういう意味では、先ほど市長が答弁されましたように、環境状況を工夫する必要があるというふうには思っております。以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

見るところが狭い、臨場感が不足、決定的ですよね。断層面をきれいに露出させたとき、手をかけて。これは明確に断層がわかりますが、露天で月日がたつと、だんだん不鮮明になる。期待を持って来た人は、なんだということになるんですね。お客さんの目線では、何が求められているのかというふうなことをしっかりと、あそこの施設については考えなきゃいけない。そして何ができるかということですね。費用の問題は後ですよ。金かかるからできませんって、最初からできない理由を言うのはなしにして、何が求められているか、何ができるか、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)



佐々木文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 佐々木繁雄君登壇〕

○教育委員会文化振興課長(佐々木繁雄君)

お答えいたします。

フォッサマグナパーク、ご存じのように糸魚川静岡構造線を見ることができる唯一の場所であり、ジオサイトでもあります。そこが大地の4つのプレートが重なり合う割れ目の唯一の場所だということをわかっていただくということが、大変重要であるというふうに思っておりますので、そういう部分が欠けていると言え、欠けているかもしれませんが、そのために昨年、平成23年度の予算から繰り越しの事業を行う中で、二、三メートルあった断層露を6メートルぐらいに広げたところであります。

ただ、断層露そのものは非常に大きな距離でありますし、見える露面というのは非常に少ないわけではありますが、ご存じのように場所が断層の破碎帯といわれる、断層露面がこすれ合って非常に細かい粒子になっておりまして粘土状ということと、非常に雨水が出やすいということとありますので、湧水されやすい場所でもありますので、基本的には淡路島のようなところの断層露のように目でしっかり見える、クリアに見えるというような場所はないわけがあります。そういう意味でイメージを持っていただいて、これが断層露の一部であるというような工夫が必要かというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

日を見て断層がはっきりとわかる、その位置に立っている実感ですね、感覚、五感で感じられるということになるんでしょうけど、露出させた断層面を保全して、いつ来ても観光客がそれを見て、感じることができる施設にする、そのことがやっぱり求められているわけですよ。

じゃあ、どういう施設をつくると、どれだけ金がかかる。じゃあ財政的に可能かどうかということと、それはもう1つは、そこまでのお金をかけて、施設を整える必要があるかどうかという判断になります。それほど重要なジオサイトであるか。今の状態で工夫をしないということは、あの程度でいいと思っていることになりませんか。やはりもう1つ、2つ、工夫を重ねていく必要がある。露天でだめなら、上屋をかける。水が湧いてだめだったら、横から水を抜いてしまう。そこに水が流れてこないように、湧き出して断層面を傷めることがないようにやる、工夫はいっぱいありますよ。それと財政面の比較になってくるじゃないですか、それと重要性の問題、そこまで捉えて検討してますかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

フォッサマグナパークは非常に重要なところであります。また、ご指摘した点についても以前から課題となっております部分でございまして、3メートルから6メートルにしたのも、そういった理由からであります。

今ご指摘いただいた点についてもやってきたんですが、やはり滑り面とかいろいろ出てきておるわけでございますので、その辺の出し方。一番いいように、断層がよく見えるようにやるという形になっていくと、かなりの金額になったということの中から、もう少し様子を見るという形で、3メートルから6メートルにさせていただいております。以前よりは、よくなったというぐらいではあるんですが、やはり知事からの指摘もあったように、根本的には課題解決にはなってないと思っております。

そういったところをまた今言われるように、いろいろな考え方があると、もうちょっとやはり幅広く、一番理想というもので捉えただけで、今断念してる部分でございまして、今言われるようにいろんな考え方を少し持っていきながら、そういった方向で目的を達せられるかどうかもあわせて、検討させていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

私も大変重要なポイントだと思うんですよ、フォッサマグナパークは。でも、あそこへ行った人は、もう1回行きたいとは思わないです、今の段階では。やっぱりそういう施設にしていかなきゃいけないんですね。

新幹線1階部分の活用の話に入りますが、北口、王国館の案内所と、南口、新幹線駅舎1階のジオパーク情報発信コーナー、運営は誰が行っていくんでしょうか、どういうふうに連携をとるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

## ○交流観光課長(滝川一夫君)

お答えします。

現時点では、商業ベースが北口にあるわけですから、そちらのインフォメーションも確実にやる必要があります。それから新しく南口のほうは、新幹線駅舎ができるわけですが、そこら辺のインフォメーションもしっかりあっていかなければいけないと、直接そういうふうに思います。ただ、この2つの面をうまく調整せざるを得ない部分が、非常に今の難しさであります。だとすれば観光案内所を今の北口に少し配置をしまして、私ども糸魚川市で進めているジオパークの情報発信コーナーとして、サテライトをうまく使つて南のほうで展開したいと。最終的には淘汰される場面もあるかもしれませんが、現時点では、そこをうまく関係者とあわせて調整しながら、運営をしていかなければいけないのではないかというふうに把握しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

## ○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

## ○13番(伊藤文博君)

今の答弁ですと王国館のほうは観光協会、駅舎1階は市が直営で行うということですか。それとも指定管理のような形の中で、観光協会に両方やらしてもらうのか、運営が誰になるのか。そして、もう一度それを踏まえて、連携の話をお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

## ○議長(古畑浩一君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

## ○交流観光課長(滝川一夫君)

ジオパークのサテライトオフィスの出発点からそうありますけども、市が直接的ではあるにしろ、最終的にはジオパーク協議会とか、ジオパークガイドの会をお願いしまして、委託行為で今、実施しております。同様な形で推移したいと思いますので、観光協会並びにジオパークガイドの会と調整を保ちながら、そこら辺の運用をしっかり図っていきたいと。どちらも間接的には、市が関係してくるのではないかなというふうには思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

## ○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

## ○13番(伊藤文博君)

もうハード面の整備もこれから進んでいきますし、そのソフト面の中身ですね、実際の運用面を詰めていかなきゃいけないもう時期にきていると。それを今の段階で答弁があったような形で、これから進めていくことになる、実際に運営が始まるぎりぎりになって、誰がやるのか決まっていって、ばたばたしてしまうということになるんじゃないかなと思うんですよね。スケジュール的には大丈夫ですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

## ○議長(古畑浩一君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

## ○交流観光課長(滝川一夫君)

新しい年度もあります。そういう意味では、即座に3カ月ぐらいでやりなさいということぐらいのいくらか調整はできると私は思っております。ただ、駅舎のほうの完成時期もあります。ソフトだけの準備はやられても、ある一定期間、そのままいろんな打ち合わせはあるにしても、最終的に、そこに入れる時間をしっかりターゲットをとりながら、私どものほうで配慮をしまいたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

## ○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

## ○13番(伊藤文博君)

それはソフト面だけ決まってから、随分待ちますよなんていうスケジュールは当然ないです。そんな話をしてるんじゃなくて、例えば両方が同じような機能を果たすとなると、二重に経費がかかるというような問題もあります。そこでどう連携をとっていくのか。そういうことを詰めていくと、いろいろ検討するべきことはたくさんあると思うんですよ。その検討段階というのは、やはり固定された部署で、専属の人が検討していくようなことでは多分ないでしょうから、いろいろな業務をしていく中で、その兼務した人がやっていくということになると、相当なやっぱり時間がかかる。考えれば考えるほど時間がかかりますよね、そういう意味で言ってるんですね。

両方が同じような機能を果たしながら、お客さんの利便性を高めなければいけない。それぞれの役割を果たしながら補完し合っていく。コスト面の不安を解消するなら、ITの活用だって必要でしょう。そうなってくると予算の問題も出てきます。ランニングコストをかけないで、それで運用していくというためには、初期投資も大分要るかもしれません。そういう意味の検討が早い時期から必要であるということをおっしゃるんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

○副市長(本間政一君)

議員ご指摘のように1階通路、高架下について、なかなか市の案が出ないということは事実だと思っております。これまで何回となく話をしていますが、ようやく形が、イメージ的なものが見えてきたので、早急に詰めましょうということの段階になっておりますが、やはり今言われておりましたように、ヒスイ王国館と新幹線の下が競合したものはないし、また、連携をとらなきゃならんし、また、新たには費用がたくさんかかればいかなものかって、いろんなことは当然想定されておりました、やはりそこら辺はしっかりと踏まえた中での協議が必要だというふうに思っております。

議員が今指摘をされておることは十分認識をしておりますので、しっかり庁内で関係課、あるいは違った外部の方の意見も入れる中で早い時期にまとめて、やはりどういう問題があるのかってしっかり煮詰めて、決めてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

南北両日に案内所のようなものがある、これはいいと思うんですよ、コスト面さえクリアできれば、そのほうが利便性が高いわけですから。だけど逆に言うと、コスト面をクリアしなければ、できないということになります。だからやっぱりそれは、かなり知恵を絞らなきゃいけないだろうと思いますね。

鉄道のジオラマのほうの話ですが、これで1つの結論が出た。そこでいい施設にするために、内装などの設計に工夫を凝らす。そういうことにはなりますが、それだけでは不十分だと思いますね。

1つの結論が出たら、それに何の疑いも持たずに進めていく。計画がバイブルである。今の駅周辺整備構想なんていうのが、あれがバイブルになって、もう時代おくれのものになっていても、そのままいっちゃうわけですけど、そうではなくて、やはりよりよい施設にしていこうためには、よりよい運営をするためには、果たしてそれだけでいいのかという視点が不可欠である。これもやはりそこに何か、よりもっともっとと追い求めていく熱意、発想が必要であるというふうに思うんですね。

さっきの答弁で言うと、ジオラマとプラレールと言いましたよね。これはある程度決まって、もう運営なんか決まってるような話ですよ、ほぼ。ところが情報発信コーナーのほうは、まだ曖昧模

糊としている。やっぱりここでちょっと、もう一工夫していく必要があるんじゃないかなというふう  
に感じとるんですけど。僕はちょっと不安なんですよ、不安だから聞いているんで、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

酒井産業部長。〔産業部長 酒井良尚君登壇〕

○産業部長(酒井良尚君)

今、両方の南口、北口の観光の部分、それから駅の1階のフロアの活用について、昨年来、いろ  
いろ議論を重ねてきて、ある程度の形が出てきているという段階まではきておりますが、ご指摘のよ  
うな運営といったソフト面、それから、そこに至るさまざまな課題の整理、まだ道の途中でありま  
して、これは時間をかけるわけにはいかないというふうに思っておりますので、できるだけ早期に、  
その整理をしていかなければいけないと思っております。

そういったことから運営体制、あるいは内容もソフト面であれば、さらに詰めることもできます  
ので、時間的に余裕のあるものと、それからそうではないもの、そういったものをしっかり整理を  
して、かかっていかなきゃならないと思っております。いずれにしても時間がもう限られている  
ということ、急いで整理を進めたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

5番目の質問のところ、土台となるべき観光地としての基礎力を養う必要があります。これまで  
してきた質問が、もうこの質問なんですね。

それで私が友人から教わった話をちょっと引用してみたいと思いますが、日本サッカーの繁栄に  
は、チェアマンの川淵二郎さんの手腕が大きかったと。この人の手腕がなかったら、今日のサッカ  
ー界の繁栄はなかったであろうということです。プロ化を検討している段階で、山のような反対勢  
力とぶつかった。「時期尚早」「前例がない」という言葉であります。ここでも時々聞きますよね、

答弁側で、県内20市の例を調べてみます、前例主義ですね。時期尚早と言う人は、100年たつて  
も時期尚早と言うんだそうですよ。前例がないという人は、200年たつても前例がないと言うんだそ  
うです。これは川淵さんの言葉ですよ。

そもそも時期尚早と言う人は、やる気がないということだそうですよ。でも、私はやる気があり  
ませんとは情けなくて言えないから、時期尚早という言葉でごまかす。前例がないと言う人は、私  
にはアイデアがない。でも、私にはアイデアがないとは恥ずかしくて言えないですね、だから前例

がないという言葉で逃げようとする。仕事のできない人、みずからの仕事に誇りと責任を持ってない人は、次から次へとできない理由だけを探す。できませんと言うのは簡単ですよ、その理由を見つけるのも簡単です、すぐに言えます。そのできないことにチャレンジして、できるようにして見せるんだということで、川淵チェアマンは押し切って行って、プロ化を達成したそうです。

この言葉を聞いたときに、ああ、糸魚川のジオパークも、やはり何かもう一つここを踏み越えていく強烈なパワーみたいなものが必要である。じゃあそのパワーは、どこから生まれるのかなというふうに考えるんですね。そうすると、私はよく職員の意識改革は、市長が熱源となった熱伝導ですという言い方を何回もしてるとは思いますけど、ジオパークに関しては、やっぱりそこからもっともっと大きな枠組みの中で、一丸となった情熱の固まりができないと達成できない。今までの行政手法の中では、到底ジオパークを生かし切った糸魚川市の繁栄というものは、望めないんじゃないかなというふうに思います。

だから最初の質問のところの前任者のやっていたことをやるという範囲から、もう大きく踏み出していけないと、また今の交流観光課長なんかは前任者がいないような部署ですから、新たに手探りで一生懸命やってきたんだと思いますけど、やはりそこを庁内全体として取り組んでいく、相当な意識改革が必要だと思っております。これは要望ですから答弁は要りませんが、ぜひよろしくお願いたします。

終わります。

○議長(古畑浩一君)

以上で、伊藤議員の質問が終了いたしました。